

# 2015 年国勢調査の人口移動集計における不詳按分と按分結果の検証：要約版 (『人口問題研究』77 巻 4 号、pp. 293-315)

小池司朗・菅桂太

## 1. 研究の目的

国勢調査の人口移動集計は、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来人口推計における人口移動仮定の設定に活用されるなど貴重な統計である。しかしながら、2010 年以降の同集計では不詳割合が高く、また不詳の発生状況に大きな地域差が存在するため(図 1)、そのままでは分析等に活用しづらいという難点がある。本研究

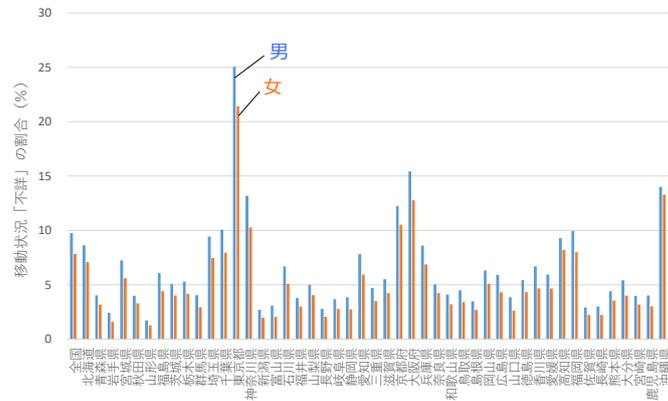


図 1 2015 年「国勢調査」における都道府県別男女別「移動状況「不詳」の割合

では、菅・小池 (2018) において試みた 2015 年国勢調査の人口移動集計の不詳按分の結果を詳細に示すとともに、不詳按分の妥当性について、総務省「住民基本台帳人口移動報告」(以下、「住基移動」と)の比較等を交えて検証した。

## 2. 分析方法

2015 年国勢調査の人口移動集計においては、①年齢不詳のほか、②5 年前の常住地が国内の他の市区町村であることは判明しているものの具体的な市区町村が不詳の「5 年前の常住地「不詳」」、および、③5 年前の常住地が「現住所」、「自市町村内」、「転入」のいずれかも不詳の「移動状況「不詳」」の 2 種類の不詳が存在する。菅・小池 (2018) ではこれらの不詳について、2015 年の市区町村別および男女年齢 5 歳階級別に、基本的には既知の年齢分布や 5 年前の常住地の

分布にしたがって比例配分する形で按分を行った(図 2)。

5年前の常住地	男				女			
	0~4歳	...	85歳以上	年齢「不詳」	0~4歳	...	85歳以上	年齢「不詳」
常住者								
現住所								
自市町村内				①				①
自区内								
自市内他区								
転入								
県内他市区町村から				①				①
...								
他県から				①				①
...								
国外から				①				①
5年前の常住地「不詳」	②			①	②			①
移動状況「不詳」				①				①

図 2 「国勢調査」人口移動集計における統計表「現住市区町村による 5 年前の常住市区町村」

## 3. 結果

図 3 は、不詳按分前後の東京都、周辺 3 県、名古屋圏、大阪圏、非大都市圏の 5 地域における 2010~2015 年の転入超過数を同期間の「住基移動」による転



図3 按分前後の転入超過数と「住基移動」による転入超過数の比較

図5は、全国の市区町村を2010年の国勢調査による人口規模等にしがって15の類型に分類し、各類型における按分前と按分後の転入超過率を比較したものである。按分前は転入超過率の地理的傾向がはっきりしないが、按分後は概ね大都市圏に属する地域ほど転入超過率が高い傾向が明瞭に現れ、国勢調査から得られる2010～2015年における地域別人口の変化の傾向とも整合的となっている。

#### 4. まとめ

不詳按分後の人口移動集計は各種分析のためのプラットフォームとして活用されることが期待される。今後の課題として、不詳按分の精緻化、按分後の集計結果を各種の人口移動分析や地域別将来人口推計に応用していくことなどが挙げられる。

#### 参考文献

菅桂太, 小池司朗 (2018) 「2015年国勢調査人口移動集計における「不詳」と転出率の関係」『国際的・地域の視野から見た少子化・高齢化の新潮流に対応した人口分析・将来推計とその応用に関する研究 平成29年度総括研究報告書』, pp.121-140.

入超過数と比較したものである。とりわけ東京都と非大都市圏における按分後の転入超過数は「住基移動」による転入超過数に大幅に近づき、按分の蓋然性は高いことが察せられる。東京圏において按分前の転出入数と不詳按分により加算される転出入数を見ると、転出に加算される数と比較して転入に加算される数が圧倒的に多くなっている(図4)。

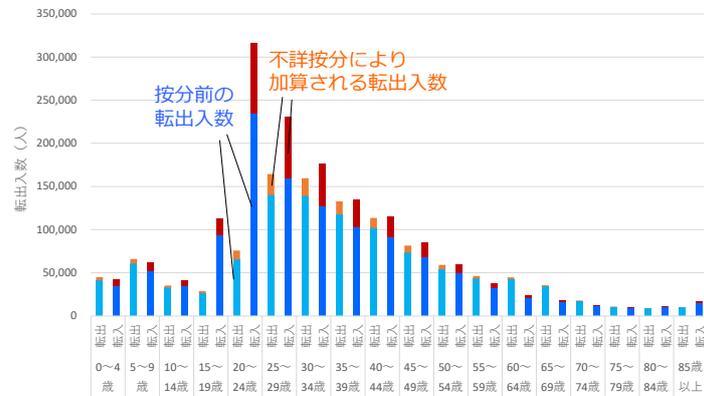


図4 年齢別、按分前の移動数と不詳按分により加算される移動数(東京圏)

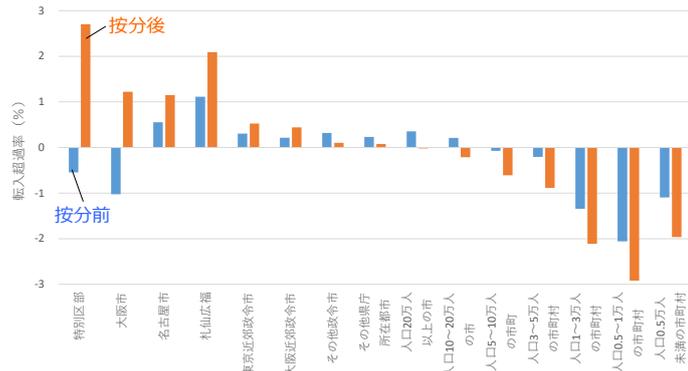


図5 市区町村の地域類型別、按分前後の転入超過率の比較